

令和 4 年度 墨田区立外手小学校 経営報告書

令和 5 年 3 月 1 3 日

学 校 目 標	「世界へ かがやけ 外手の子」 かんがえる子、がんばる子、やさしい子、けんこうな子
目 指 す 学 校 像	・児童一人一人が自分自身の思いをもち、考える力を身に付けることのできる学校 ・粘り強く最後までやり通す力を育成し、児童一人一人が活躍できる場をつくることのできる学校 ・安全・安心な教育環境のある学校
目 指 す 子 供 像	・規範意識や社会性を身に付けた思いやりのある児童 ・自ら考え、友達と学び合える児童 ・友達と励まし合いながら最後までやり通すことのできる児童
目 指 す 教 師 像	・適正な人権感覚をもち、保護者や地域の方々と協力し、共育を推進できる教師 ・児童の実態を分析し、児童理解の上に立って計画的・意図的な実践ができる教師 ・指導力の向上を目指し、力量を高めるために主体的・意欲的に研修に励む教師

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項 目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
各教科等指導	学校は、確かな学力を育てるための、分かりやすい授業を実施しているか。	B	「考える力」や「自分の考えを表現する力」を定着させ、さらに伸ばすために、タブレット端末を活用した意見穀粒や話し合い活動の工夫と充実を図る。また、板書計画や教材提示も工夫し、デジタルやアナログの良さを活用していく。	B	A
	学校は、特別な支援を必要とする子供に対しての、組織的な支援等を行っているか。	A	特別支援教育委員会を引き続き定期的の実施、児童の実態把握や情報を共有化することで適切な支援を行っていく。また、特別支援教室拠点校として「連携型個別支援計画」を活用し、特別支援教育コーディネーター、学級担任、特別支援教育担当教員が連携することで効果が高まるようにしていく	A	A
	学校は、社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育・相談活動等に取り組む。	B	「キャリア・パスポート」を活用し自己の個性や適性、将来に目を向け、自分らしい生き方を実現するためのキャリア教育を引き続き推進していく。	B	A
	学校は、教員の指導力・授業力の向上のための、組織的な取組等を行う。	A	各教員が、自らの授業力の課題を明確にし、校内外の研修を通して、指導技術を高められるようにしていく。そのために、OJTの活性化を図り、校内研究を充実させていく。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等	墨田区学力状況調査の結果を見ると、全国平均正答率より上回ったものが多く評価できる。引き続き、子供たちの学力の定着と向上のために努力してほしい。また、タブレット端末を活用した授業の工夫についても推進し、子供たちにとって分かりやすい授業を実施してほしい。			

項	評価項目	自己評価	学校関係者評価
---	------	------	---------

様式 4

目		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について	
生活指導等	学校は、いじめ、不登校等の予防や解決に向けた組織的な取組等を行っているか。	A	アイ・チェックや「心すっきりカード」を活用し、子供の様子を把握すると共に、生活指導部を中心として組織的に対応していく。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、特別支援教室巡回指導員、関連諸機関との連携も図っていく。そして、相談しやすい環境づくりを行っていくとともに問題行動の未然防止、早期発見・解決に努めていく。	A	A	
	学校は、基本的な生活・社会習慣、人間関係づくりのための心の教育等に取り組んでいるか。	B	全教育活動で行われる道徳教育について充実させるとともに、道徳科が道徳教育の要として効果的に機能できるようにしていく。これらのことを通して、子供たちが楽しく学校生活を送ることができるよう適切な支援を実施していく。また、家庭との連携を密にして基本的な生活習慣の定着と規範意識の育成に努める。	B	A	
	学校は、危機回避能力の育成や子供の安全を確保するための取組等を行う。	B	全校の取り組みとして安全教育を進めてきているので、引き続きこれに取り組んでいく。校内の環境整備も充実させ、今後、「セーフティー教室」「薬物乱用防止教室」にも注力しながら、防犯意識や危険回避能力を育成していく。	B	A	
	学校関係者評価委員会の意見等	いじめ課題について適切に対応しており、安心感がもてる。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響が大きい中ではあったが、子供たちは安全に過ごすことができたと捉えられる。今後も子供たちの安心・安全を推進してもらいたい。				
項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について	
学校の管理運営	学校は、経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営等を行っているか。	A	教職員間の縦の連携と横の連携を図りながら、組織的な教育活動、学校運営を行っていく。共通認識・共通実践の場を設けることで、それを随時確認できるようにし、「チーム外手」として機能的に活動していく。	A	A	
	学校は、子供の実態に合わせた教育目標設定及び学校評価等を適切に行っているか。	B	3年生以上の算数においては、習熟度別少人数指導を実施しながら、子供一人一人の学力の伸びや努力を踏まえた「指導と評価の一体化」の充実を図る。また、他の教科においても墨田区学習状況調査の結果を活用し、「指導と評価の一体化」を図っていく。	B	A	
	学校には、適切な教育活動が行える教育環境・設備等を整えているか。	A	タブレット端末の活用により、子供一人一人の学ぶ意欲が高まっている。今後も、学習意欲の高まりのもと、主体的・対話的な学びが深まるよう、教育活動環境・設備の充実を図っていく。	A	A	
	学校関係者評価委員会の意見等	学校長の経営方針は大変分かりやすく、共感できる。学校評価のサイクルも明確になっており、評価もしっかり行われている。				

様式 4

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
家庭・地域連携	学校は、教育方針や日常の教育活動の様子などを工夫して分かりやすく伝える取組等を行っているか。	B	ホームページは適宜更新しているが、積極的な発信ができるよう工夫していく。また、「COCOO」を活用し、より学校配信メールが効果的に機能するようにしていく。	A	A
	学校は、保護者や地域の理解や協力を得た教育活動を行っているか。	B	現在、コロナ禍の影響により、地域の宝である人材を招いての学習があまり実施できていないので、今後はできる限りの工夫をして実施できるようにしていく。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等	コロナ禍と言われる状況下において、開催できない活動や行事があることは残念に思う。今後、社会状況と照らし合わせながら、可能な範囲で地域連携行事を開催していくことを望んでいる。			

2 令和4年度学校評価のまとめ

- ・校長の学校経営方針を教職員がしっかりと受け止め、児童の指導に取り組んでいる。また、ベテラン教員と若手教員がともに学び合う姿が見られ、「チーム外手」を掲げる組織運営の成果と感じられる。
- ・コロナの影響を鑑みながら、学校行事を含め、子供たちが楽しくて安全な学校生活を送れるようにしていく。
- ・多様化した価値観や学校だけでは解決しえない課題も少なくない中、様々な人々が協働して教育活動を展開し、学校目標「世界へ かがやけ 外手の子」の実現に向けて尽力していく所存である。

以上の通り報告いたします。

墨田区立外手小学校 校長 由良 隆